

## 序

天皇の存在は日本の国がらの最も基本的な特徴である。「天皇」を理解することによつて、われわれは日本及び日本人を見、また「天皇」を理解してもらうことによつて、全世界の人々に日本そのものを確実に見てもらうことができるであろう。

天皇はしかし、容易に理解されにくい状態にある。戦前は神秘的な虚飾が多かつたし、戦後の天皇に関するニュースは消極的にしか知らされていない。これをたしかめようとするものにとつては調査に想像もつかない苦勞がある状態である。

しかも戦前の天皇は神格化され、誤解されていた。終戦直後、天皇はその悲劇的な弊害をみとめられて、神話や伝説による神にあらずと宣言された。「天皇」の内容がかくして神から人間に移つたことは、わが天皇制の歴史のうえの劃期的な発展であつた。ことに今上天皇は、素朴で温かい、情愛のこまやかな人間性に富まれ、微生物の学究として最もこまかな分野の研究をたのしむ、善良で穏和な人格者であられ、人間天皇、科学者天皇などと親しみ深くあおがれている。新しいこれからの平和と文化の国の天皇として、初代に最もその人をえたものといえよう。

しかしながら、天皇は普通の人間であると同時に、天皇という最高の社会的地位と役割とを持たれ、二千年以上の長い日本歴史の連綿たる伝統の頂点に立つ唯一の人である。日本民族史の進展はいつも皇室を契機とし軸として開かれ、大多数の国民もまたこの進展のなかに苦樂や生死をともしてきた長い祖先の物語を回想し、そこに民族的統合の可能性を信じている。こんにちの天皇の新しい社会的地位や役割も、天皇に対するかかる伝統的な国民の信愛の情に基礎づけられている。

この意味において、今後の新日本建設に、国民的統合とその協力を必要とするかぎり、天皇の存在は新しく見なおされねばならない。そしてこの天皇制が民主主義の進歩的な発展に適切にプラスしてゆくことを真剣に考究してゆかねばならない。

天皇と国民との戦後新しく生れた諸関係を実証的に研究しつつ、私はその記録やスナップを集めていたが、これらを編集し、世に出すことの意義また少なからざるもののあることを信ずるにいたつた。これらを通じ、未知の多くの「天皇」と「国民」を見得た、と同時に、あらゆる人々にこのありのままの天皇を正視することを切望するからである。

このアルバムが各位の家庭や事務所や応接間におかれて、より多くの人々の目にふれ、天皇への理解が一そう大衆化するにいたることを祈つてやまない。

このアルバムの中の写真は、宮内庁の好意によつて同庁所有のものもとより、各方面から献納されたものをほとんど、また全国各新聞社、通信社の好意によつて見且つ集めたものなど、合せて約6万枚の中からえられた。その他にもこの発刊には各方面の先輩知己から、いく多の協力が惜しみなく与えられた。ここに謹しみ深謝の意を表する。

このアルバムは昭和27年4月28日の日本独立の日を現在として、苦難の6年間を回顧する仕組みになつている。この企画を組み立てたころは、講和独立の日を予想していなかつた。陛下及び同胞各位の努力が早くこの日をかちえたことを、心から同慶祝福するとともに、このアルバムが記念の出版になりえたことに無上の光栄を感じつつ、これを陛下及び国民各位に捧げんとするものである。

昭和27年9月1日

清水伸

—社団法人日本輿論調査研究所長—